

1 協会事業

青年中国上海スタディツアーを実施しました
第27回外国人による日本語スピーチコンテスト開催

2 Global View

留学生特集

4 交流の広場

相互理解・多文化共生への取り組み
わが町の外国人リーダー
Young Eyes
Across Culture

6 地球だより

アフリカの真珠ウガンダ

県だより

世界で活躍したいと考えている中高生を応援します!

7 For You

お知らせ

8 TOPICS

CONTENTS

青年中国上海スタディツアーを実施しました

平成30年3月5日(月)から茨城空港発着で4泊5日間、19名の大学生が古い歴史文化とともに経済発展で勢いがある中国・上海に渡航し、茨城県上海事務所のサポートを得て研修を行いました。

総領事館、県事務所、企業等で中国や日中関係を学ぶ

在上海日本国総領事館やJETRO上海、茨城県上海事務所、企業(春秋航空本社、上海ヤクルト販売)を訪問しました。また、通常一般公開していない上海豊田紡織記念館も見学しました。

在上海日本国総領事館やJETRO上海、茨城県上海事務所、企業(春秋航空本社、上海ヤクルト販売)を訪問しました。また、通常一般公開していない上海豊田紡織記念館も見学しました。

参加学生の声

- 中国の社会や文化、経済について学びきっかけを作り、現地の声を聴くことが出来た。
- 日系企業の見学により、自身の就職活動に向け目指す目標が出来た。
- 現地の大学生との市内視察は、最大の思い出になった。

華東師範大学を訪問し、中国大学生及び留学中の日本人学生との交流では、大学生の興味の違いなどの意見交換を行いました。また、フィールドワークとしてグループで上海市内を散策し、地下鉄乗車なども体験しました。最後に夕食会で交流を締めくくり、抱き合って別れを惜む姿もみられました。

現地大学生との交流と市内散策で上海を肌で感じる

もっと詳しく知りたい/参加してみたい方は

平成29年度青年中国上海スタディツアーに行ってきました!
<https://www.ia-ibaraki.or.jp/kokusai/event/kouza/index.html>

なお、今年度も実施を計画していますので、ご興味ある方は秋頃以降当協会ホームページの新着情報をチェックするか直接お問い合わせください。

第27回外国人による日本語スピーチコンテスト開催

2月25日(日)県民文化センター小ホールにて、第27回外国人による日本語スピーチコンテストを開催しました。

このコンテストは、県内で生活している外国人の皆さんが日頃考えていることや日本・茨城の印象、母国の話など県民との相互理解を深めるテーマを日本語で発表し、異文化交流を促進するものです。当協会設立以来実施しており、今年で27回目を迎えました。

今年は33名の方から応募があり、選考の結果、10カ国、男女15名が出場しました。

民族衣装を着てスピーチをした出場者も多く、華やいだ雰囲気で会場を盛り上げました。

司会は、常磐大学に勤務するジョーダン オケンニさん(アメリカ出身)と、茨城県国際交流員のグロリア チェンさん(カナダ出身)が務め、お二人の息の合った進行に発表者もリラックスし存分に力を発揮できました。

アトラクションでは、ベトナムからの留学生によるベトナム民族舞踊、アメリカ、オーストラリア等出身の皆さんで結成されたバンド



The Little Rippersの演奏が披露されました。

今年も、14の協賛企業・団体から素晴らしい賞品を提供いただきました。また、ボランティアの皆様33名のご協力によって、運営をスムーズに終えることができました。

なお、上位入賞者は以下の通りです。

賞	受賞者	タイトル
茨城県知事賞	リン ダニエル ルイ (出身)カナダ	「ダサイいばらき」or「スゴいばらき」
茨城県議会議長賞	ラフマント (出身)インドネシア	日本人は嘘が上手です
茨城県教育長賞	エヴァ ヴァネサ デヴィド (出身)マレーシア	自分の限界を広げてみませんか?
ひばり賞	グエン ティレー (出身)ベトナム	美しい日本語
日本語ボランティア賞	ラフマント (出身)インドネシア	日本人は嘘が上手です
若人賞	リン ダニエル ルイ (出身)カナダ	「ダサイいばらき」or「スゴいばらき」

留学生特集

平成30年度茨城県留学生親善大使は、県内の大学等で学ぶ25か国77名にのぼる国・地域からの留学生が任命されました。多様な地域からの出身者が、今後、県内小・中・高校や特別支援学校などで母国の言葉・文化の紹介を通じて国際理解教育の一役を担います。また、県内各所をめぐるバスツアーへ参加し、SNSで茨城の魅力発信に協力します。

現在、茨城県内の大学等の高等教育機関では留学生数が増加傾向にあり、今回は留学生の在籍状況や県の新たな取り組みなどについてレポートします。



茨城県留学生親善大使の任命式



ワールドキャラバン
国際理解教育講師等派遣事業

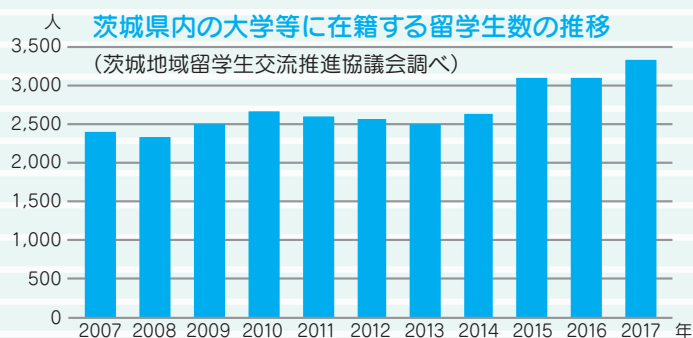
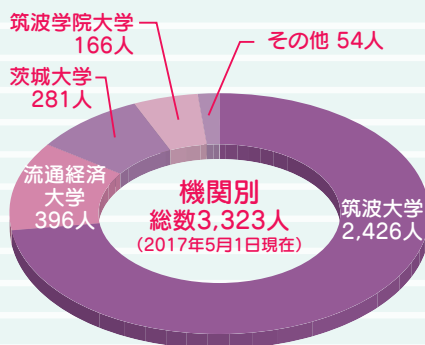


クエスト茨城留学生研修

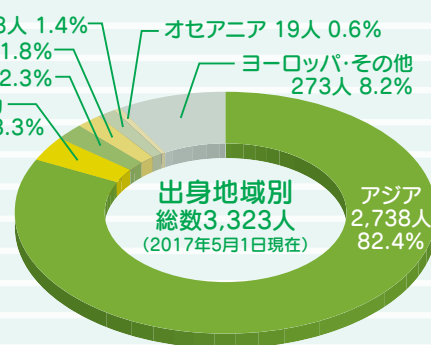
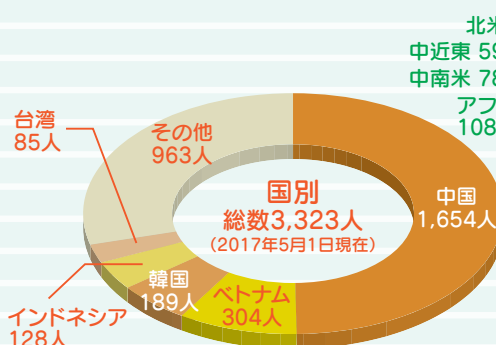
茨城県内の留学生数

2017年5月1日現在、県内の大学など高等教育機関で学ぶ留学生の数は3,323人です。2011年に発生した東日本大震災以降一旦減少したものの、それ以降再び増加傾向にあります。

所属機関別では、筑波大学が最も多く、次いで流通経済大学、茨城大学となっています。



県内の留学生を国別にみると、上位5か国は、中国(1,654人)、ベトナム(304人)、韓国(189人)、インドネシア(128人)、台湾(85人)となっています。世界の出身地域別でもアジアが8割を超えています。



高等教育レベルでの学生の流動が世界規模で高まるといわれていますが、オリンピック・パラリンピックが開催される2020年を目標に、政府は海外からの留学生受け入れ数の大幅な拡大を目指しています。このため、本県の留学生数も今後ますます増加することが予想されます。



政府の方針（日本再興戦略改定2016、未来投資戦略2017（ともに閣議決定）など）において、外国人留学生が高度人材として本邦企業へ就職する際の就職支援強化が掲げられています。日本で学んだ外国人留学生は、専門性のみならず日本社会への理解や日本語が自由に話せるなど、日本の産業界に馴染みやすいというメリットがあります。一方で、就職先としてはまだ大都市圏や自国でも知られている大手企業に集中する傾向があります。

今年度、茨城県では新たに茨城で学ぶ留学生を県内の企業への就職に結びつける新しい取り組みがスタートしますのでご紹介します。

県の取り組み

外国人留学生の県内就職促進事業について

茨城県産業戦略部労働政策課 主任 島田 康裕

現状

全国では、大学(学部)卒の留学生のうち約7割が日本での就職意欲があるものの、実際に就職するのは約3割といった調査結果が報告されております。(経済産業省『内なる国際化』を進めるための調査研究) 本県においても、県内大学等には3000名を超える外国人留学生が在籍しており、外国人留学生・企業双方に就職・採用意欲があるにもかかわらず、それが実際の就職・採用に十分につながっていない可能性が考えられます。

今年度の取組

県は今年度から、外国人留学生と企業の双方に交流の場を提供することで、外国人留学生の県内就職の推進を図る事業を実施します。

具体的には、秋に、県内企業を対象とした、外国人留学生採用の現状や在留資格等に関するセミナーの開催を予定しております。この機会が、企業の外国人留学生採用に関する理解を深め、外国人留学生を高度人材として受け入れることについて考えるきっかけとなれればと考えています。

さらに同時期に、外国人留学生と企業が一堂に会するインターンシップマッチングフェアの実施を予定しています。これにより、外国人留学生と企業の担当者の方が直接交流することによって、両者の相互理解が図られ、後のインターンシップの実施へとつながることを期待しております。

そのうえで、上記マッチングフェアに参加した外国人留学生と企業を主な対象としたインターシップを実施することにより、多くの外国人留学生に、県内企業の魅力を知っていただき、県内就職に結びつくよう取り組んでまいります。

将来展望

多くの外国人留学生が大学卒業後も県内企業に就職する機運が生まれ、外国人留学生が県内で活躍できるよう、積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

大学の取り組み

大学においても近年留学生の就職支援の動きが活発化しています。

筑波大学では企業へ提出するエントリーシートの記入方法や自己PRなど基本的なスキルの講座を実施しています。

外国人留学生のためのキャリア・就職支援講座

第1回 日本での就職活動について・外国人留学生として心がけること

第2回 外国人留学生OB・OGとの交流会

第3回 ビジネスマナー(習慣と文化)

第4回 エントリーシート対策①(自己PRの作り方)

第5回 エントリーシート対策②(志望動機の作り方)

第6回 面接対策①(グループディスカッション)

第7回 講演「優良企業の見つけ方」

第8回 先輩留学生の内定者との交流会

第9回 面接対策②(集団・個人面接)

(出所 筑波大学就職課ホームページ)

相互理解・多文化共生への取り組み

～インドネシアからの技能実習生を受け入れて～

はさき漁業協同組合 総務部長 宮本 聡

はさき漁業協同組合では、2015年4月からインドネシア共和国からの外国人技能実習生受入れをはじめました。当組合の技能実習生は、組合に所属するまき網漁船、底曳き網漁船に乗船し日本の漁業について学びます。

インドネシアという、当地域ではあまり馴染みのない国からの来訪者であり、生活や文化、宗教が違うため、実習先である船上、生活の場となる地域で意思の疎通が図れるよう、神栖市国際交流協会様にご協力いただき日本語の学習に力を入れています。

お国柄で年齢は若干違いますがインドネシア現地の水産高校を卒業したばかりの子たちが技能実習生として来日するため、年齢の近い市内高校生と空手、書道、茶道など日本文化を体験する交流会を神栖市国際交流協会様のご厚意により行っております。交流会ではお互いの生活、文化、夢などをテーマに意見交換も行われるのですが、お互い良い刺激を受けていると感じます。

また、夏に行われる地元祭礼「大潮祭り」には当組合の技能実習生は全員参加するのですが、南国の国民性か、陽気で明るくお祭り好きな彼らはすぐに馴染んで地元の担ぎ手と一緒に神輿をかついで街を練り歩いています。技能実習生受入れにあたっては心配もありましたが、ニコニコとした笑顔と、真面目に働く姿は日本人にとって昭和初期に戻ったような懐かしい気持ちにさせるのか、実習先では概ね良好な関係が築けているようです。地域の方々とも祭りを通してお互い顔の見える関係を築くことで双方の不安が解消され、相互理解が図れることを願っています。

受入れをはじめて4年目、多文化共生が目指せるよう試行錯誤の最中ではありますが、無理のない範囲で励んで参りたいと思います。



大潮祭りにて



県立神栖高等学校茶道部との交流会



わが町の外国人リーダー



斉藤 リリアナさん
取手市在住
(在住歴23年)
ペルー共和国出身

リリアナさんをご紹介します

斉藤リリアナさんは日系三世としてペルーに生まれ、日本人のご主人と結婚。二児の母として育児、教育に携わる傍ら、在留外国人の生活環境向上のため、取手市国際交流協会理事(交流事業部)として参画されています。その活動は多岐にわたり、外国人ネットワークの立ち上げ、震災復興のシンボリックイベント(ゆめあかり)のプロデューサーとして在留外国人の地域事業参画の中心人物としてその役割を担ってきました。

取手市国際交流協会 会長
志村 俊晴

リリアナさんにお聞きしました

これまで取手市で生活してきてよかったこと、感じていることなどを教えてください。

私は取手に23年間住んでいます。それは生活環境が良く、安全な町だからです。日本に初めて来た時、いろいろと経験をしました。大変だったのは日本語でした。話すことが難しく他の人と自由に話すことが来ませんでした。日常生活に困るので、TIFAが主催する日本語教室に参加しました。そこで素晴らしい人達に出会い、言語だけでなく、この美しい国の習慣と規則も学びました。今、日本語を教えていただいた人達に感謝の気持ちで一杯です。私は自信を持って日本語を話すことができるようになり、PTAなどに自信を持って参加しました。協会では「外国人ネットワーク」を作る仕事をしました。「外国人ネットワーク」とは、外国人に分かりやすいように、TIFAの広報紙を簡単な日本語で書き、漢字にはふり仮名をつけたものです。他には、11年前から市内の小学校での通訳や学習支援を行い外国人家族が生活しやすくなるよう手助けをしています。

日本で生活している外国人の方々へのメッセージやアドバイスをお願いします。

アドバイスをしたいことは、日本語を学ぶことです。自信を持って日本語でコミュニケーションしましょう。日本語が話せるようになっていくと付き合いが上手くいくと思います。次に日本に住むなら日本の習慣を守りましょう。最後に、私達は自国文化を紹介しましょう。



TIFAサロン
「マレーシアとペルー料理」



国際理解教育で
小学校訪問

YOUNG EYES

日本の裏側、南米のアルゼンチン、ブラジルには、茨城県から移住された方が多く住んでいます。茨城県では、南米との架け橋となる人材を育成するため、青年2名をアルゼンチンへ派遣し、県人会の皆様との交流を通し、アルゼンチンや移民の歴史を学んでいただきました。（茨城県県民生活環境部国際交流課）

アルゼンチン訪問を終えて

筑波大学人間学群障害科学類3年 高橋 和生

この派遣事業では3つのことを中心に行いました。1つは在アルゼンチン茨城県人会の方々との交流です。ホームステイをしたり、パーティーをしていただいたりしました。また、県人会の方々と一緒に、学校や病院、日系企業などをまわり、お話を伺ったり、建物を見学したりしました。最後は、スペイン語の勉強です。アルゼンチンの人とコミュニケーションをとれるように、訪問前と訪問中にスペイン語のレッスンを受けました。

アルゼンチンでの滞中で、生活や文化、日系人の移住の歴史などを学ぶことができました。また、スペイン語が十分にわからないことへの不安や悔しさ、自分の気持ちを伝

えることができない寂しさを感じて、言葉の重要性を感じました。さらに、県人会の方々は2

世、3世と世代がかわっていても、日本のことを大切に思っていてくれていることに感動しました。東日本大震災や東京オリンピック決定の際には、ブエノスアイレスの中心に集まってお祈りをしたり一緒に喜んだりしてくれていたそうです。

アルゼンチン訪問を終えて、私も日本とアルゼンチンをつなぐ一人になりたいと考えるようになりました。より多くの方がアルゼンチンや南米のことを知り、そこで暮らす日系人のことを想ってくれるよう、私にできることを行っていきたいと思っています。

今年度はブラジルへの青年の派遣を予定しています。興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ茨城県国際交流課までお問合せください！



茨城県県人会の皆様と(会長宅での歓迎パーティー)



病院訪問
(左端が高橋さん)



スペイン語レッスンの
修了式
(右端が高橋さん)

広場

ACROSS CULTURE



ここが違って、おもしろい!!

アルメニア VS 日本

筑波大学 人文・文化学群 人文学類 ガロヤン ポリナ

2017年の10月から私は初めて日本での一人暮らしを始めました。家族から離れたことのない私が、楽しい生活できるかずっと心配しましたが、日本に来てやっと故里に戻ってきた感じがしました。

でもやはり外国人として、もちろんいろいろな難しいこともありました。例えば一番困ったことは友達を見つけることでした。日本人たちは恥ずかしいということを知っていましたが、そんなにも難しくなるということ想像もできませんでした。

次に大変だと思ったことがアルバイトでした。私にとって日本人とアルメニア人たちの働き方が全然違います。特にスタッフの職務とお客様に対する尊重が違います。アルバイトが終わった後いつもクタクタですが、日本の美しい自然が疲れた私を癒してくれる。そして忙しい週が終わるとたまに温泉に行くことが私の大好きな

休み方になりました。

日本に興味を持つようになった時、日本人たちの考え方は一番面白いだと思いました。他に似ている考え方がないと思うぐらいです。最も面白かったのは、人生への態度と人々に対する態度です。例えば仕事が早めに終わっても、みんなを待っていて一緒に上がることなど。そして私が育てられた国では見たことのない日本人たちの丁寧さ。もともと日本に興味を持ち始めた理由はそれでした。

日本で生活をしながら、たくさん勉強したことから分かるようになったことがあります。私が学んだ最も重要なことは毎日感謝すること、辛くても一生懸命勉強を頑張ることだと思います。

私は学生時代には一度みんな留学するべきだと思います。自分の人生では一番いい経験だったと思います。自分が将来何をやりたいかとわかって、これからも頑張りたいと思います。（原文のまま）



地球だより

アフリカの真珠ウガンダ

青年海外協力隊(平成27年度3次隊) 松本 英徳

皆さん、初めまして。

私は青年海外協力隊として、2016年1月からアフリカのウガンダという国に派遣されています。私の任地は首都カンバラから東へ80キロほどの「ジンジャ」という日本人には少し耳慣れた名前の町です。

私はそこで職業訓練校の自動車科の教員として活動しています。主な活動は授業のサポートや、他の教員や生徒に対し自動車やオートバイの構造や整備技術について指導しています。

ウガンダは、自動車のほとんどを日本からの輸入に頼っています。日本の中古車をこちらに持ってくるので、故障も絶えません。そして、街中で見かける車は日本車の割合が高く、日本車に詳しい日本人のボランティアへのニーズも高いです。

アフリカというと、皆さんはどういった所だと想像しますか？赤道直下の灼熱の太陽や雨が少なく食物が育ちにくい土地といったイメージでしょうか？ウガンダは赤道が通っている国ですが、標高が高く湿度も低いので、日本の

夏のように蒸し暑く不快に感じることはありません。また、降水量の多い

雨期には、緑の多い青々とした大地が広がっています。

ウガンダでの食事ですが、主食はメイズ(甘くないトウモロコシ)を乾燥させ粉にした物を水で戻し、蒸した「ポショ」と呼ばれるものや、マトケ(甘くない調理用)バナナを蒸した物を、豆や肉の入ったスープにつけて食べます。お米の生産も盛んで、最近はコメを主食にする人も増えました。

特にこの国はパイナップルがジューシーで美味しく、世界一美味しいのではないかと考えています。皆さんも機会があれば是非食して欲しいと思います。



自動車科の生徒たちと



首都カンバラの乗り合いタクシー乗り場です。ほとんどがドコダのハイエースです。



マトケとパイナップル

県だより

世界での活躍を目指す中高生を応援します！

平成30年度から新規事業として、「次世代グローバルリーダー育成事業」がスタートしました。この事業は、グローバル社会で活躍できる「人財」を育成するため、2年間にわたり英語学習・研修会に積極的に継続して取り組める意思と意欲のある中高生を対象に、インターネットを活用したトップレベルの学習や英語漬け体験研修、模擬国連会議等への参加プログラムを提供するものです。県内の中学校・高等学校等に通う中学1年生から高校2年生を対象としたところ、88名の応募があり、その中から40名の受講生を選考しました。

主な事業内容は、グローバル社会で活躍するために必要となる「英語力」、「価値創出」、「異文

化交流」の3つのテーマから構成されています。

まず、「英語力」では、マンツーマンやグループワークでのオンライン英会話学習や短期集中型の英語漬け体験により、思考力やプレゼン力などを育成します。次に「価値創出」では、世界の第一線で活躍する「人財」との交流や模擬国連会議等への参加を通して、新たな価値の創造を図ります。最後に「異文化交流」では、海外の大学に進学した日本人留学生等との交流会を開催し、生徒自身の意識や考え方を広げます。

5月26日(土)には、キックオフ研修会が開催され、BBCワールドニュースで日本人初のレポーター兼プレゼンターである大井真理子さんを講師に、基調講演と交流会を実施しました。参加した受講生からは、「英語力だけでなく、自分の伝えたいことを伝えられる熱意が必要だ」という話がとても印象に残った」「断られても、食らいつくことの大切さを知った」などの感想が聞かれ、受講生たちの研修意欲もさらにかき立てられたようです。

(茨城県教育庁学校教育部義務教育課 指導主事 森江 邦和)



講演会の様子



大井さんに質問をする受講生



思いを語る大井さん

for you...

通訳ガイドボランティア育成講座の受講者を募集しています！

東京2020オリンピック・パラリンピック開催を控え、茨城を訪れる外国人観光客の更なる増加が見込まれる中、観光地などでボランティアとして英語の通訳ガイドを志す方のための研修講座を開催します。

研修内容

- 第1回 8月25日(土) 10:00～15:00 茨城県開発公社大会議室
○「通訳ガイドの心構え」
心構え、マナー/ 観光英語レッスン/ 文化や習慣の違いに対する基礎知識、等
- 第2回 9月15日(土) 10:00～15:00 茨城県開発公社大会議室
○「茨城観光ガイドの基礎知識」
水戸藩(西山荘・佐竹寺)/ 寺院仏閣/ 岡倉天心/ 観光地別グループワークによる通訳シミュレーション
- 第3回(現地研修-1か所選択) ※中級コースのみ
・10月13日(土) 常陸太田方面(西山荘, 佐竹寺)
・10月27日(土) 北茨城方面(五浦海岸, 浄蓮寺)
・11月17日(土) ひたちなか方面
(ひたち海浜公園・村松山虚空蔵堂)

対象

本県在住・在勤・在学の高校生以上でボランティアとして英語での通訳ガイドを志す方。受講後、通訳ガイドボランティアとして積極的に協力する意欲をお持ちの方。

募集人員

上級コース(英検1級程度) 20名程度、中級コース(英検2級程度) 90名程度(応募者多数の場合、選考にて決定いたします。)

参加費 無料(交通費、昼食代等は自己負担)

申込方法 当協会HP、新着情報にて詳細をご覧ください。
<http://kokusai.intergear.net/info/detail.php?lang=jp&id=5902>

申込締切 平成30年8月6日(月)必着

お問合せ 茨城県国際交流協会交流推進課 TEL029-241-1611



事業ボランティアを募集しています！

県民の皆様とともに国際交流を進めていくため、県内から広くボランティアを募集しています。「外国人による日本語スピーチコンテスト」等当協会主催の各種事業を通して、共に国際交流・国際協力活動に携わってみませんか？詳細は、協会ホームページをご覧ください。総務課までお問い合わせください。皆様のご応募をお待ちしております。

当協会の賛助会員を募集しています！

当協会の活動を支援していただく賛助会員を募集しております。賛助会員には、機関紙「ふれあい茨城」の送付、各種イベント・国際交流協力等情報の提供、協会施設の優先利用などの特典があります。また、個人会員に限り会員証を提示することで協会と提携する旅行会社の商品の割引を受けることができます。

なお、賛助会費は、公益法人への寄付として申告により所得税や法人税の優遇措置の適用を受けることができます。

20以上のご支援も歓迎しております。どうぞよろしくお願いいたします。

賛助会費	団体会員	1口	10,000円/年
	個人会員	1口	3,000円/年

※賛助会特典、税金の優遇措置の詳細については、当協会HPをご覧ください。

ホストファミリーを募集しています！

ご家庭で国際交流をしてみませんか。ホームステイを希望する外国からのゲストを温かく受け入れてくださるホストファミリーを募集しています。詳しくは当協会ホームページ内「多文化共生サポーターバンク」のページをご覧ください。なお、今年度の「茨城ふるさとファミリー事業」は9月29日(土)～30日(日)を予定しています。



新人紹介



小松 幸子

はじめまして。4月から総務課に勤務しております小松と申します。急速にグローバル化が進むなか、地域で草の根的に活動をされている方々や、地域国際化協会としてより良い成果を上げるため真摯に取り組むスタッフたちから刺激を受け、学ぶことの多い毎日です。皆様のお役に立てるよう努めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



木村 優希

皆さん、こんにちは！4月から交流推進課に勤務しております木村優希と申します。学生時代から国際交流・国際協力に関心があったので、協会での業務に携われることを嬉しく思います。生まれも育ちも茨城ですが、日々移り行くもの、変わらないもの、未知なる出会いなど発見は尽きません。みなさんと共に茨城の魅力を沢山見つけていきたいと思っています。仕事にも早く慣れるように頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



上田 尚広

初めまして。今年度4月より、茨城県国際交流協会内にJICA茨城デスクとして着任致しました、上田尚広(うえだなおひろ)と申します。私は青年海外協力隊として、今年の1月まで南アジアに位置するスリランカで、しょうがいのある生徒への支援、現地教員の指導技術向上のため活動をしてきました。近年、旅行者が増えてきているスリランカの魅力や、開発途上国としてのスリランカの現状など、多くの方にお伝えできればと思っています。また、水戸市にお越しの際には、お気軽にお立ち寄りいただくと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

茨城県にお住まいの外国人の皆さんが安心して生活できるよう、9言語での相談受付や情報の提供に努めます。特に今年度は訪日外国人のさらなる増加が予想される中、本県の観光や産業交流推進に寄与するために、語学サポーター等ボランティアの皆さんのご協力をいただき観光分野等での外国人受け入れへの支援者の拡充を図ってまいります。各事業の詳細な内容は、今後発行します「ふれあい茨城」誌上や当協会ホームページでご案内いたします。

マークのご案内 ☆セミナー・講座 ◇イベント ◎講師等派遣事業 □情報提供・相談 ○その他

1 共に目指す多文化共生社会づくり

(1)外国人が安心して生活できる環境の整備に努めます。

①コミュニケーション支援

- 多様な広報媒体・9言語による生活情報を提供します。
(英語、ポルトガル語、中国語、タイ語、タガログ語、スペイン語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語)
- ・ホームページ、フェイスブックなどによる情報提供
- ・生活ガイドブック、災害時マニュアル、メディカルハンドブック等の外国人支援図書による情報提供
- ☆外国人の日本語学習を支援します。
・外国人が身近で日本語を習得することができるよう、ボランティア日本語指導者への研修を支援します。

②外国人相談体制の充実

- 外国人相談センターでの9言語による相談に対応します。
・外国人住民の日常生活での疑問や問題を解決するため、弁護士会などと連携し、年間を通じ相談事業を行います。曜日別に9言語で生活全般について相談に応じます。
- 休日無料法律相談を実施します。



▲外国人相談センター

□市町村及び地域のボランティアとの連携による相談体制の整備に努めます。

③多文化共生のためのサポーターバンクの運営

- 外国人住民の支援や本県の魅力発信に協力いただくサポーターを登録する多文化共生サポーターバンクを運営します。
(登録されているサポーター)
語学サポーター 医療通訳サポーター 災害時語学サポーター
外国人のための地域生活アドバイザー 各国事情紹介講師
ホームステイホストファミリー

④災害時・緊急時の在住外国人支援体制の充実・強化

- ☆防災訓練への外国人の参加を促進します。
・外国人と災害時語学サポーターが、ともに茨城県総合防災訓練に参加し、避難、応急手当等の訓練を受けます。
- 広域での連携による災害時の支援体制の整備に努めます。
- 外国人が病院などで円滑にコミュニケーションができるよう、医療機関からの要請により、医療通訳サポーターを派遣します。

(2)外国人による地域活動の推進

①在住外国人や留学生の地域活動への参画拡大

- 外国人の皆さんにご協力いただき、自ら活動できるよう、イベントや講座等、地域活動への参加を進めます。特に留学生や本県在住経験のある外国人による地域の情報発信等の活動を推進します。

2 グローバル交流の推進

(1)国際活動情報の提供

①情報提供等シンクタンクとしての役割強化

- 機関誌「ふれあい茨城」を発行します。
・協会や民間国際交流・協力団体の活動や、国際理解を推進するための情報を紹介する機関誌を発行します。年3回(8月、11月、3月)
- ホームページでの情報提供に努めます。
- 国際活動に関する図書やDVDなどの収集及び貸出しをします。

(2)国際交流・協力の推進

①県民の国際交流活動の推進

- ☆国際交流・協力ネットワーク会議及び市町村協会連絡会議等を開催します。
・市町村及び市町村国際交流推進組織、民間国際交流・協力団体を対象に活動の情報交換及び研修を実施します。

- ◇イベントや地域活動等への技能実習生や外国人の参加支援と交流機会の提供に努めます。

- 茨城県国際交流協会事業ボランティアの登録・活用を努めます。

- ボランティア活動室の運営及び研修室の貸出しを行います。

②国際協力活動の推進

- JICAボランティア、国際協力への参加促進に努めます。
- 義援金・書き損じはがき等を募集します。
・海外での大規模自然災害発生の際には、「NGO 茨城の会」と連携して募金活動を行い、被災地の援助に役立てます。また、県民の皆さまに書き損じはがき等を募り、国際協力を実践している団体の活動を支援します。

(3)産業のグローバル化への支援

①企業の海外展開等への協力

- 留学生等により県産品の海外輸出のニーズ調査や、県内企業との交流、等を行います。

②茨城の魅力発信

- 「いばらきインターナショナルアンバサダー」による情報を発信します。
・留学生、在住外国人などにより、SNS等を利用し、本県の観光イベントや外国人からみた茨城の魅力を国内外に発信します。

③観光分野の語学協力

- ☆通訳ガイドボランティア育成講座を開催します。
・本県の訪日外国人の更なる増加が見込まれる中、ボランティアとして通訳ガイドを志す方を対象に、基本的な講座や県内観光地での現地研修を実施します。

▼通訳ガイドボランティア育成講座



3 グローバル社会へ向けた人づくり

(1)国際理解を推進するための事業実施体制の整備

①県や関係機関との横断的連携体制の整備

- 茨城県国際理解教育推進協議会を設置し、事業を効果的に実施します。
- 茨城県留学生親善大使を任命します。
・県内の外国人留学生約100名を親善大使に任命し、国際理解や国際交流を推進するイベントや講座で活躍していただきます。
- ☆小中高等学校の教員やファシリテーターを対象に国際理解教育研修会を実施します。
- 民族衣装や工芸品、国旗等の国際理解教材の収集・貸出しをします。

(2)相互理解・国際理解の推進

①県民の国際感覚醸成

- ワールドキャラバン国際理解教育講師等派遣事業を実施します。
・外国人講師及びファシリテーター等を学校や生涯学習の場に派遣し、異文化に触れたりワークショップを体験するなど国際理解教育の機会を提供します。
- ◇外国人による日本語スピーチコンテストを開催します。
- ☆外国人を講師に迎え、各国の文化や社会事情について英語で話し合う、世界文化セミナーを開催します。

②世界で活躍する人材の育成

- 海外研修を実施します。
・大学生を対象とし、海外の企業訪問等ビジネス研修や現地の大学生、日本人留学生との交流等、青年の海外研修を実施します。
- ☆高校生のための地球市民講座を開催し、ワークショップを通して国際協力への理解を深めます。
- ◇日本発/世界発:青年のメッセージで、留学生によるシンポジウムを実施し、若い世代へのメッセージを発信します。
- インターンシップの受け入れを行います。

③外国人留学生の多様な社会体験機会の提供

- ◇クエスト茨城留学生研修を実施します。
・親善大使をはじめとする県内で学ぶ外国人留学生が、茨城に立地する企業、施設、史跡等を訪問し、本県について理解を深めていただきます。
- ◇茨城ふるさとファミリー事業を実施し、留学生や在県外国人が当協会登録のボランティアの家庭にホームステイをする機会を提供します。



▲ワールドキャラバン国際理解教育講師等派遣事業

4 上海事務所の運営

県内企業の中国ビジネスに係る多様なニーズに対応し、中国に関する情報の収集・提供や現地活動へのサポートを通じて、企業の海外展開を積極的に支援します。